

文字情報技術促進協議会文字情報トレンド Vol.1

種字彫刻師と 現在の書体デザイン

2024/3/25

大日本印刷株式会社／市谷の杜 本と活字館
佐々木愛



市谷の杜 本と活字館



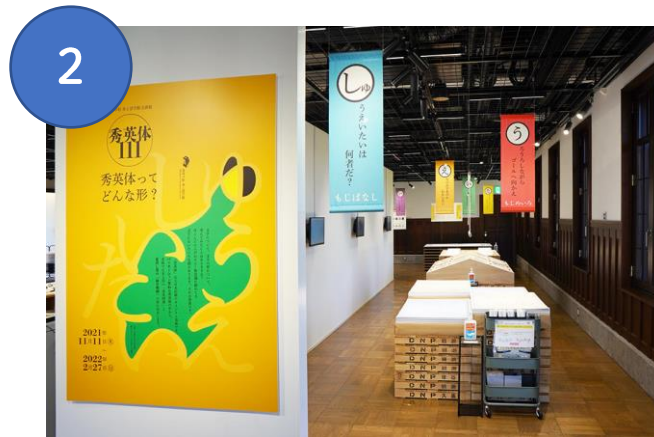
市谷の杜 本と活字館



展示室



時計台の修復・復元
2021年02月11日（木）～10月31日（日）



秀英体111 秀英体ってどんな形？
2021年11月11日（木）～2022年02月27日（日）



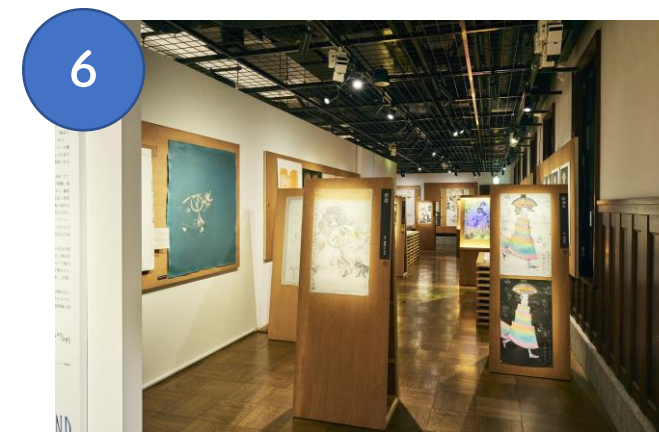
100年くらい前の本づくり
2022年03月10日（木）～07月10日（日）



探検！雑誌づくり工場（中とし編）
2022年07月16日（土）～10月30日（日）



杜の小さな印刷工房
2022年11月10日（木）～2023年02月26日（日）



宇野亞喜良 万華鏡印刷花絮
2023年03月04日（土）～10月29日（日）

市谷の社本と活字館 企画展
活字の種を作った人々

鉛の活字を組み合わせて機械で印刷する活版印刷技術は、幕末から明治初期にかけて日本に導入され、明治維新の大きなうねりとともに、産業として定着していきます。しかし、そもそも、活版印刷で使う活字はどうやって作られたのでしょうか。活字のおおもとを「種字」と呼び、その種字を彫る職人がいました。それが種字彫刻師です。

種字は活字と同じサイズの木や鉛の角材の先端に、彫刻刀を使い、左右逆字に文字を彫っていきます。本文で使う活字はわずか3ミリ程度しかありません。そこにどんな文字同士が隣り合ってもバランス良く見えるよう、大きさ、太さ、そして書風をそろえて文字を彫刻するという、人間業とは思えない精緻な技術で種字を彫刻していました。

そんな高い技術を持つと振りの職人たちですが、その多くが名前も残っていません。市井の職人として、美しい文字だけを残していました。

本展では幸うして名前の残っている種字彫刻師たちの足跡をたどります。現在の日本の書体作りの原点ともいえる種字彫刻について、そしてその時代の書体についてご紹介します。

会期 2023年11月3日(金)～2024年6月2日(日)
月・火休館(祝日の場合閉館)
2023年12月25日(月)～2024年1月5日(金)は冬季休業
主催 市谷の社 本と活字館(大日本印刷)

- 【企画協力】 企画委員
【協賛】 東京工業大学、(株)ニッポン、(株)フタバパルプ、山田和寛 (nipponia)、(株)スチールデザイン、(株)キタコ
【協力】 市谷の社
【協力】 新田製紙メディアラボデザイン、海田昌紀 (ゆかり)、イツク、新沢書店、印刷学会出版部、印刷学会館、印刷情報館、小塚高志、小笠山博史、女子美術大学、種真社、東京一、鶴田利孝、種本利夫、毎日新聞社、森一広、朗文堂

*本展の企画協力についてはすべて印刷学会館の協賛・協力です。



築

東京職人伝 印刷所

「築」は、活字を組む作業のこと。職人が手作業で、鉛の活字を木枠に組み立て、印刷機で紙に転写する。この作業は、印刷の基礎であり、職人の技術と経験が求められる。本展では、この「築」の歴史と技術について詳しく紹介する。

精秀

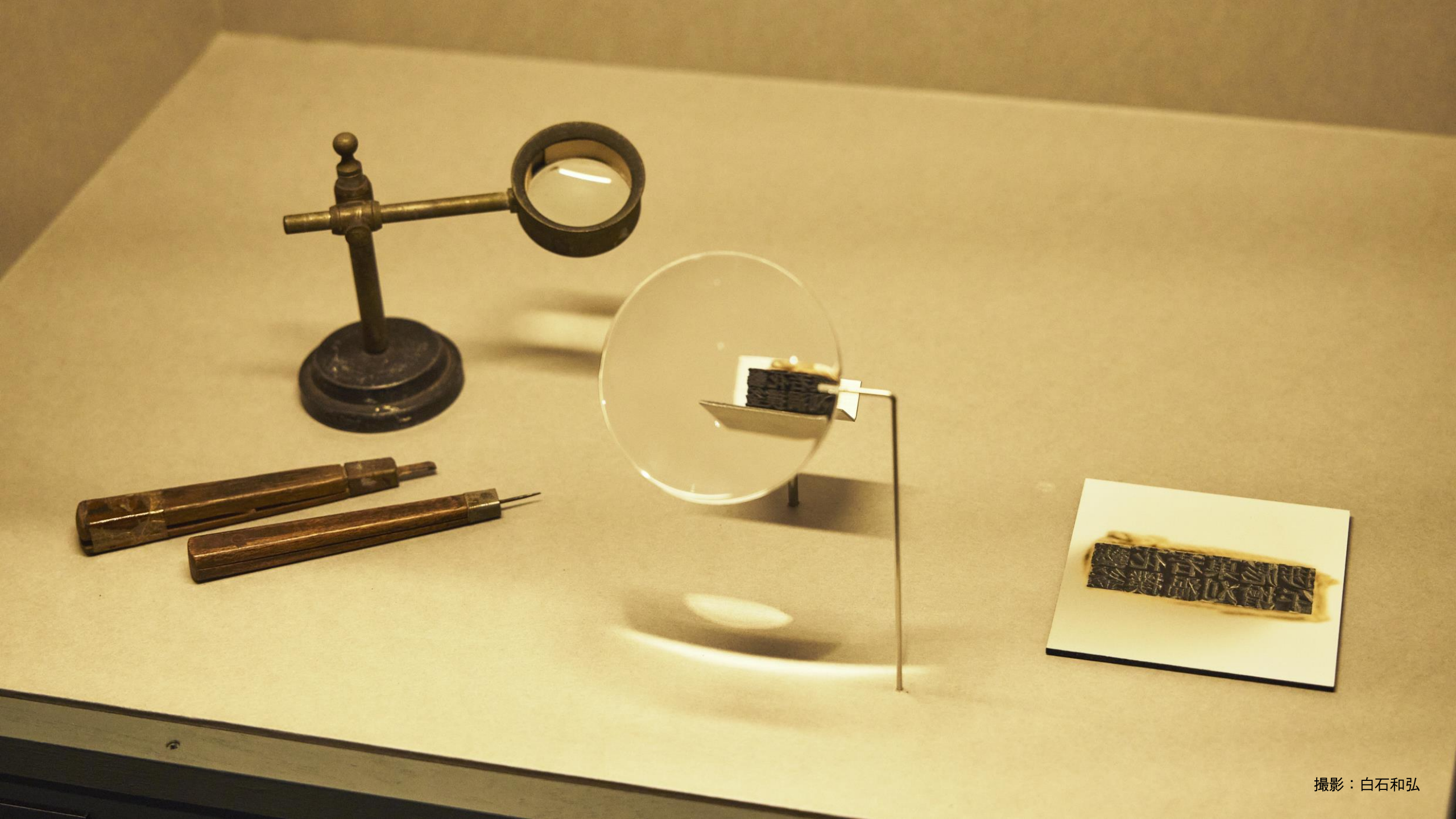
「精秀」は、活字の彫刻技術のこと。職人が彫刻刀を使い、鉛の角材の先端に文字を彫り出す。この作業は、印刷の基礎であり、職人の技術と経験が求められる。本展では、この「精秀」の歴史と技術について詳しく紹介する。

音

「音」は、活字の組版技術のこと。職人が鉛の活字を木枠に組み立て、印刷機で紙に転写する。この作業は、印刷の基礎であり、職人の技術と経験が求められる。本展では、この「音」の歴史と技術について詳しく紹介する。

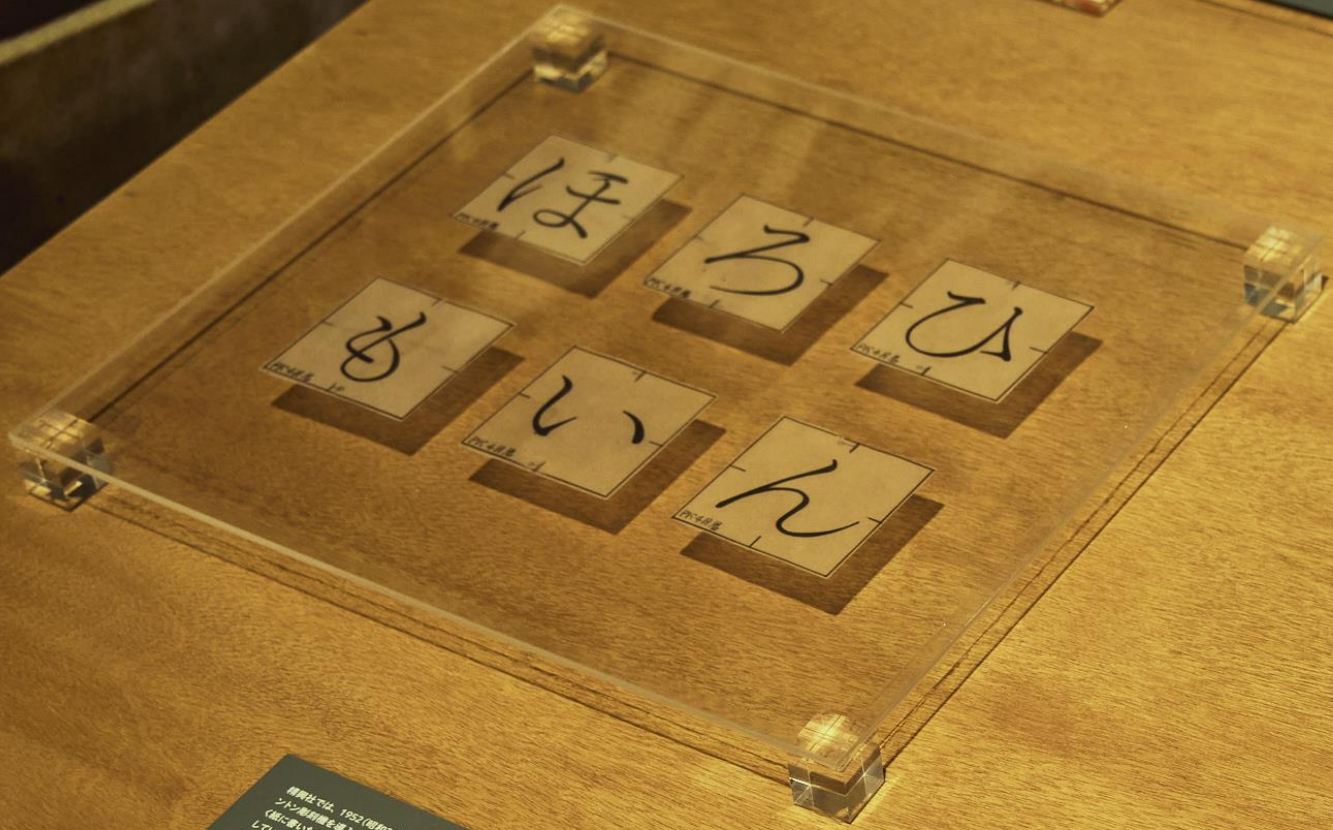
撮影：白石和弘







保存字母台帳



精興社では、1983(昭和58)年から、パソコン製版を導入し、従来よりも正確に美しい活字を印刷できるようになりました。このため、従来の鉛字製版に比べて、文字の幅や高さ、傾きなどに多少のずれが生じることがあります。このずれを補正するために、文字の幅や高さ、傾きなどを調整し、最終的に最適な文字を作成しています。

精興社書体原因(複製)
精興社刊



昭和廿八年六月三十日現在
保存字母台帳 第二巻
株式会社 精興社
茅二 師

ご自由にご覧ください

「昭和廿八年六月三十日現在保存字母台帳 第二巻」(抜粋、複製)
1983(昭和58)年
精興社刊



5 太佐源三 一八九七〜一九八八

一八九七（明治三〇）年、東京生まれ。父親のもとで種字彫刻を始めます。一九四〇（昭和一五）から一九五三（昭和二八）年にかけて朝日新聞社に在籍。種字彫刻を手掛け、ベントン彫刻機を導入後は原図制作にも携わります。定年後はモトヤで活字書体のデザインを担い後進を育成しました。

写真：印刷雑誌「昭和五八年八月号」（一九八三）掲載／印刷製版研究所

橋本和夫さんが語る太佐源三

太佐さんと僕の付き合いは、だいたい4〜5年ぐらいです。モトヤに勤めていた間、ベントン彫刻機の原因の描き方を教わっていました。文字をデザインするときの線の質、形の作り方という基本的なことは、太佐さんから教わりました。

太佐さんは活字の種字彫刻をやっておられた人なのに、原因の良し悪しがわかっているんですね。朝日新聞社ですでに原因を描いていますが、それまでは原因を描くという感覚がないんですよ。種字を彫っていたわけですからね。だから文字に対する審美眼がすごかったんじゃないかな。太佐さんは、そのころの人にしては職人さん風じゃないんです。スーツで会社に来たり、お弁当にサンドウィッチを作ってきたり、ダンディーな人でした。声楽をされていて、お昼休みにイタリア語で歌ってくれるんです。

僕の書体デザインの先生は、太佐さんと石井茂吉さんですけど、理路整然と言葉で教えてくれたのが太佐さん。「見て覚えろ」という職人風が石井さんでした。だから太佐さんは本当に先進の人、明治の人なのに令和の人なんです。2023（令和5）年5月25日インタビュー

橋本和夫（はしもと・かずお）

書体設計士。イワタ顧問。1935（昭和10）年大阪生まれ。モトヤで太佐源三のもとベントン彫刻機の原因を制作。のちに写真で石井茂吉のもと写植用原因を制作。石井の没後は、チーフとしてほぼすべての写植書体の監修にあたる。現在はイワタにてデジタルフォントの書体監修とデザインに携わる。

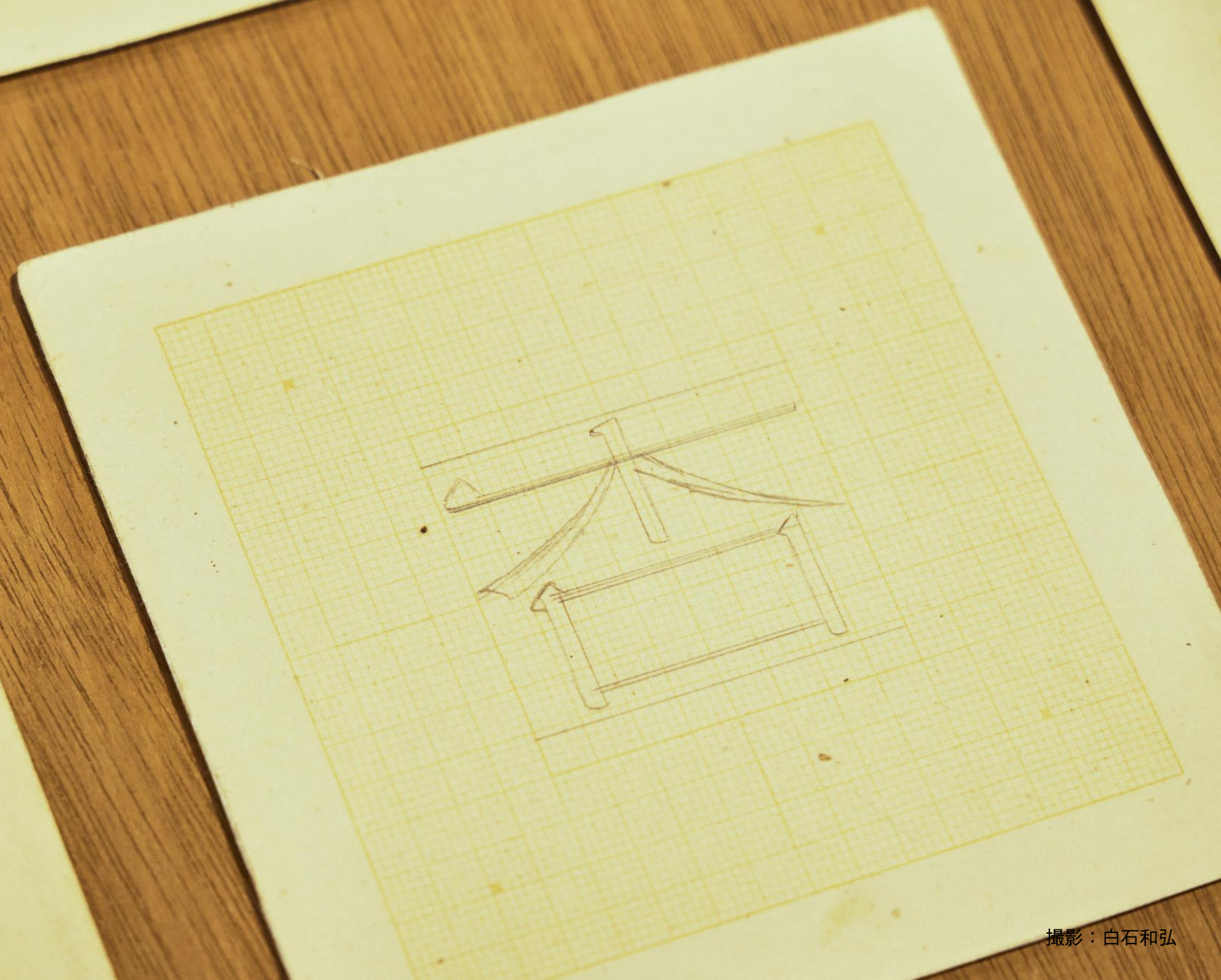
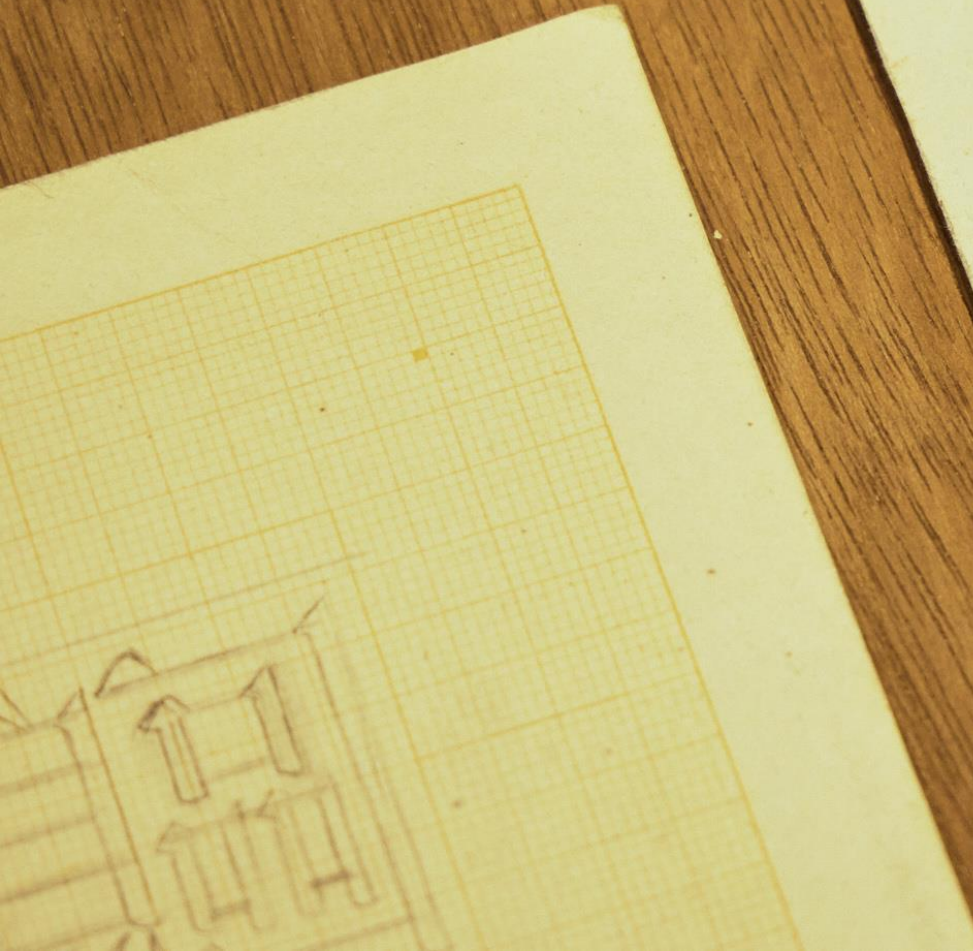
国 今 鷹 あ お た
国 今 鷹 あ お た



朝

朝日新聞社
あさひしんぶんしゃ

1879（明治12）年、大塚で「朝日新聞」を創刊します。1888（明治21）年には東京に遷出し、「めざまし新聞」を買収、「東京朝日新聞」に改題して発行を開始します。東京版創刊に伴い大阪版は「大阪朝日新聞」と改題しましたが、1940（昭和15）年に「朝日新聞」に統一されました。途中に印刷用紙が統制され、より多くの文字数を印刷するために、正方形の活字の天地を縮めた「扁平活字」を開発、1941（昭和16）年から紙面に導入しました。







種字彫刻師 人物相関図



本図に登場する種字彫刻師たちを中心に、その前後の世代の人々の師承関係や、会社間の関係を図にしました。時代とともに、活版印刷から写植、そしてデジタルフォントへと技術は移り変わりますが、種字彫刻師に文字づくりを学んだ人々が活躍し、現代の文字のデザインに影響を与えています。

竹口貞齋(茂兵衛)

博文館印刷工場(現 共同印刷)



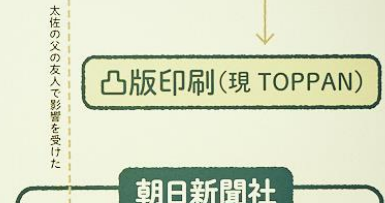
秀英舎/大日本印刷



岩田母型製造所(現 イワタ)



東京築地活版製造所



朝日新聞社



イワタ



1 竹口芳五郎 (1837-1906) 1567 (慶応3) 年頃の生まれ。14歳の時、竹口貞齋(茂兵衛)の門下に入り木版彫刻を学びます。25歳で地活版製造所に入社し、竹口正太郎に師事。種字彫刻を学びます。『印刷世界』第11巻第5号(1935)の記者として、種字彫刻の中心人物として活躍しました。

2 竹口正太郎 (1861-1924) 1877 (明治10) 年頃の生まれ。10歳時に東京築地活版製造所に入社。竹口正太郎に師事。種字彫刻を学びます。『印刷世界』第11巻第5号(1935)の記者として、種字彫刻の中心人物として活躍しました。

3 鈴木彦次郎 (1887-1952) 1907 (明治40) 年、東京生まれ。1921 (大正10) 年に東京築地活版製造所に入社。竹口正太郎に師事。種字彫刻を学びます。『印刷世界』第11巻第5号(1935)の記者として、種字彫刻の中心人物として活躍しました。

4 安藤末松 (1890-1952) 1898 (明治31) 年、東京生まれ。父の職で種字彫刻を学びました。『印刷世界』第11巻第5号(1935)の記者として、種字彫刻の中心人物として活躍しました。

5 沢畑次郎 (1898-1988) 1908 (明治41) 年、東京生まれ。父の職で種字彫刻を学びました。『印刷世界』第11巻第5号(1935)の記者として、種字彫刻の中心人物として活躍しました。

6 河村銀太郎 (1890-1962) 1900 (明治33) 年、東京生まれ。父の職で種字彫刻を学びました。『印刷世界』第11巻第5号(1935)の記者として、種字彫刻の中心人物として活躍しました。

7 君塚樹石 (1890-1962) 1897 (明治30) 年、東京生まれ。父の職で種字彫刻を学びました。『印刷世界』第11巻第5号(1935)の記者として、種字彫刻の中心人物として活躍しました。

8 太佐源三 (1891-1966) 1892 (明治25) 年、石川生まれ。父の職で種字彫刻を学びました。『印刷世界』第11巻第5号(1935)の記者として、種字彫刻の中心人物として活躍しました。

9 村瀬錦司 (1891-1966) 1892 (明治25) 年、石川生まれ。父の職で種字彫刻を学びました。『印刷世界』第11巻第5号(1935)の記者として、種字彫刻の中心人物として活躍しました。

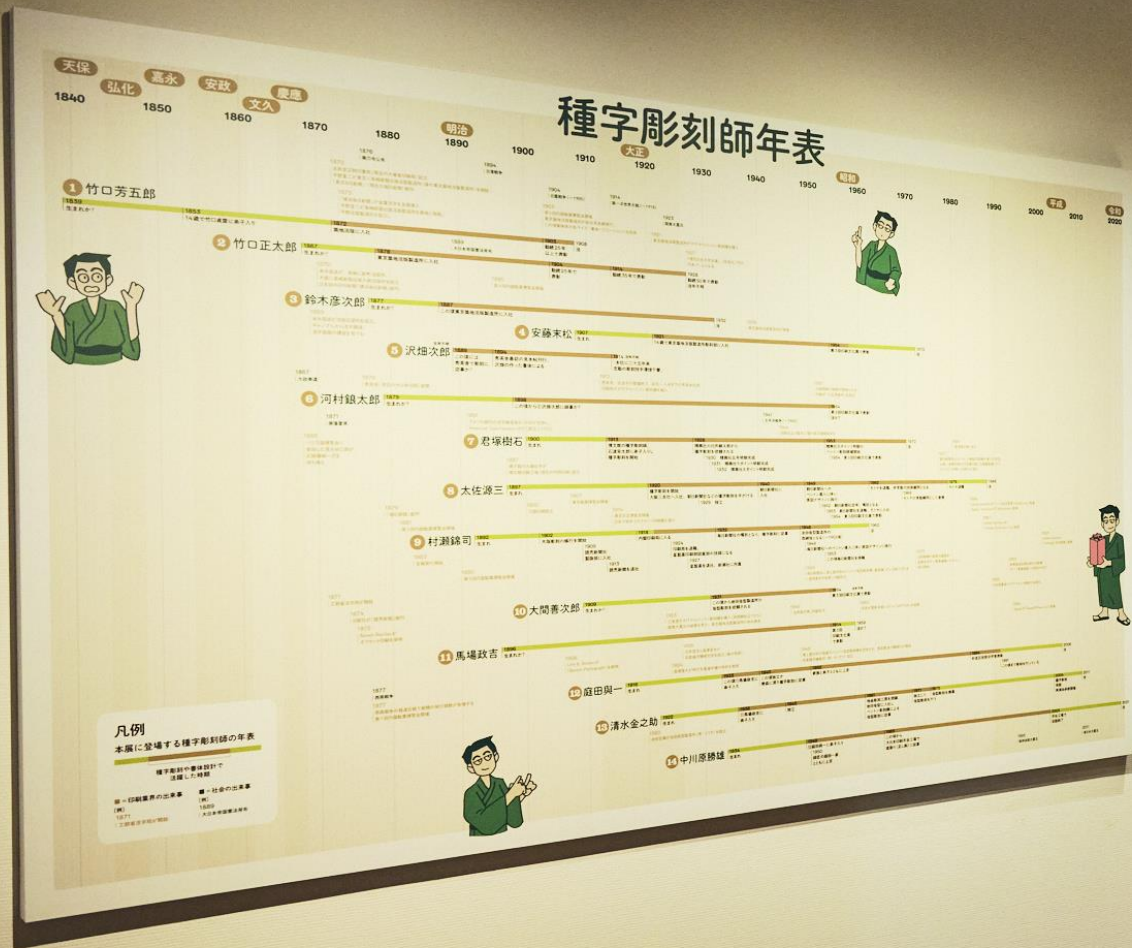
10 大間善次郎 (1891-1966) 1892 (明治25) 年、石川生まれ。父の職で種字彫刻を学びました。『印刷世界』第11巻第5号(1935)の記者として、種字彫刻の中心人物として活躍しました。

11 馬場政吉 (1891-1966) 1896 (明治29) 年、石川生まれ。父の職で種字彫刻を学びました。『印刷世界』第11巻第5号(1935)の記者として、種字彫刻の中心人物として活躍しました。

12 庭田與一 (1891-1966) 1914 (大正5) 年、青森生まれ。父の職で種字彫刻を学びました。『印刷世界』第11巻第5号(1935)の記者として、種字彫刻の中心人物として活躍しました。

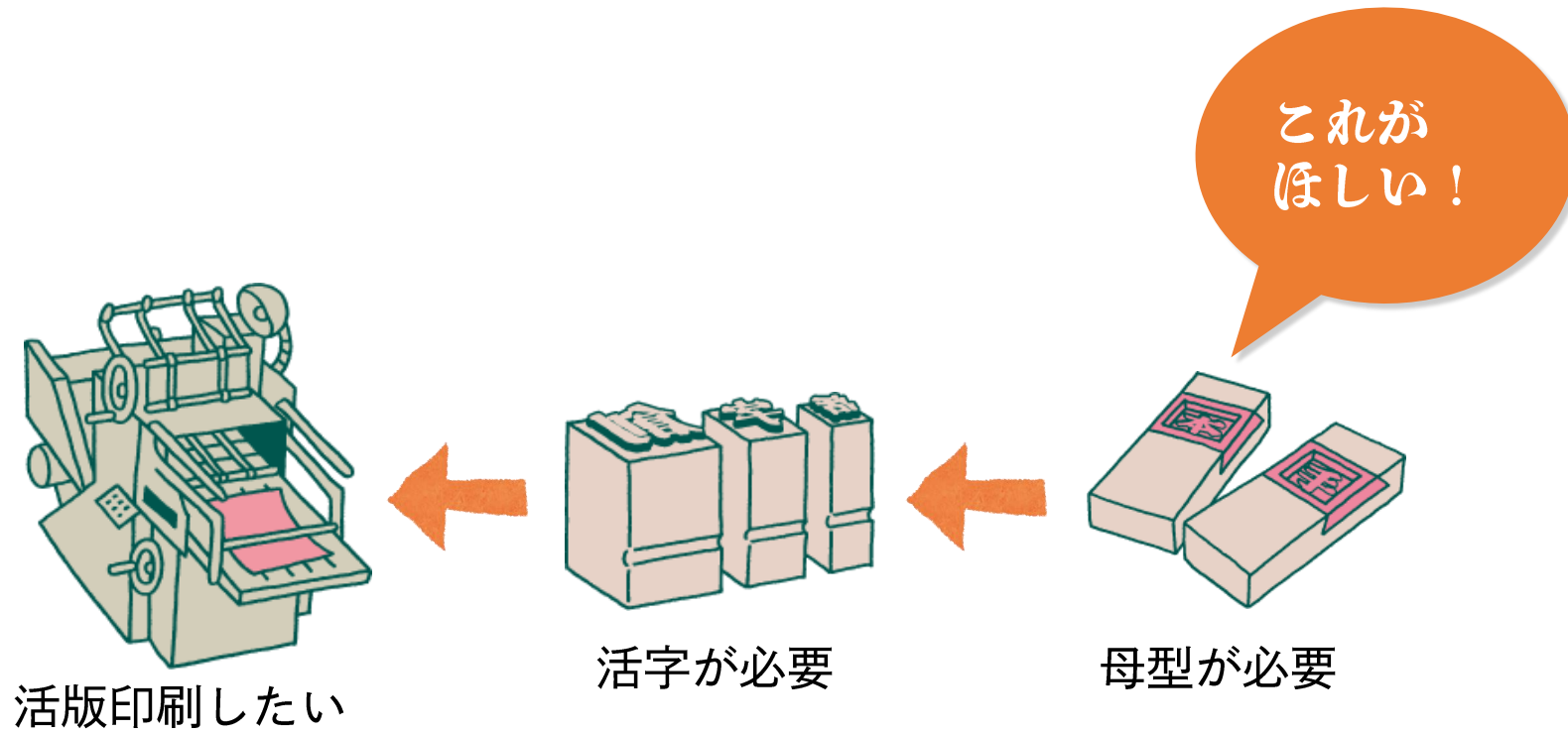
13 清水金之助 (1891-1966) 1922 (大正11) 年、東京生まれ。父の職で種字彫刻を学びました。『印刷世界』第11巻第5号(1935)の記者として、種字彫刻の中心人物として活躍しました。

14 中川原勝雄 (1891-1966) 1934 (昭和9) 年、青森生まれ。父の職で種字彫刻を学びました。『印刷世界』第11巻第5号(1935)の記者として、種字彫刻の中心人物として活躍しました。



A display area featuring a long wooden table with multiple drawers. On the table, there are several metal type blocks, some in their original cases, and a tray containing various tools and components used in the typefoundry process. A glass display case in the foreground contains a book and other items. The background shows a large, dark, textured wall with a grid pattern, possibly representing a typecase or a printing press component.

種字って？



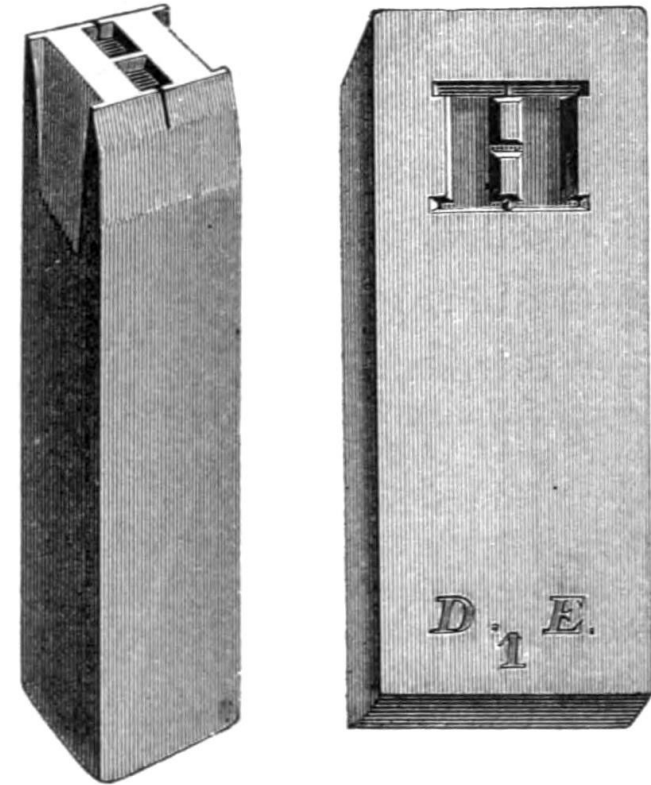
種字って？

カウンターパンチ

パンチ



パンチを押し込んで母型をつくる

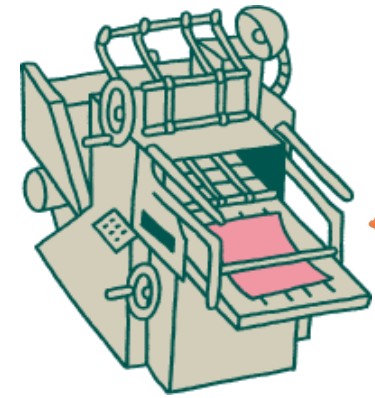


<https://en.wikipedia.org/wiki/Punchcutting>

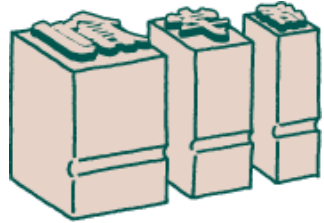
画数が少ないからいいけど……

種字って？

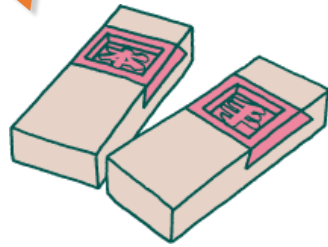
画数の多い漢字をどうする？



活版印刷したい



活字が必要



母型が必要



(彫刻母型)

幕末～



1950年代以降～



機械で彫刻



種字って？

1. お手元に紙があったら3mmくらいの正方形を描いてください。
2. その中に、逆向きに「龍」を明朝体で書いてください。

龍

龍

描けた？

紹介している14名の種字彫刻師



1 竹口芳五郎
1839?~1908



2 竹口正太郎
1867?~没年不明



3 鈴木彦次郎
1877?~1932



4 安藤末松
1907~1972



5 沢畑次郎
生没年不詳



6 河村銀太郎
1879?~1954?



7 君塚樹石
1900~1970

東京築地活版製造所

秀英舎

精興社



8 太佐源三
1897~1988



9 村瀬錦司
1892~1962



10 大間善次郎
1909?~没年不詳



11 馬場政吉
1896?~1959?



12 庭田與一
1916~2006



13 清水金之助
1922~2011



14 中川原勝雄
1934~2021

朝日新聞

毎日新聞

岩田母型製造所

種字彫刻師世代（独断）



① 竹口芳五郎
1839?~1908

①種字彫刻の黎明期

第一世代



② 竹口正太郎
1867?~没年不明



⑤ 沢畑次郎
生没年不詳

第二世代



③ 鈴木彦次郎
1877?~1932



⑥ 河村銀太郎
1879?~1954?

②明治・大正の種字彫刻師 = 和文書体を完成させた世代



⑨ 村瀬錦司
1892~1962



⑪ 馬場政吉
1896?~1959?



⑧ 太佐源三
1897~1988



⑦ 君塚樹石
1900~1970



④ 安藤末松
1907~1972



⑩ 大間善次郎
1909?~没年不詳

③全盛期、機械化への移行期



⑫ 庭田與一
1916~2006



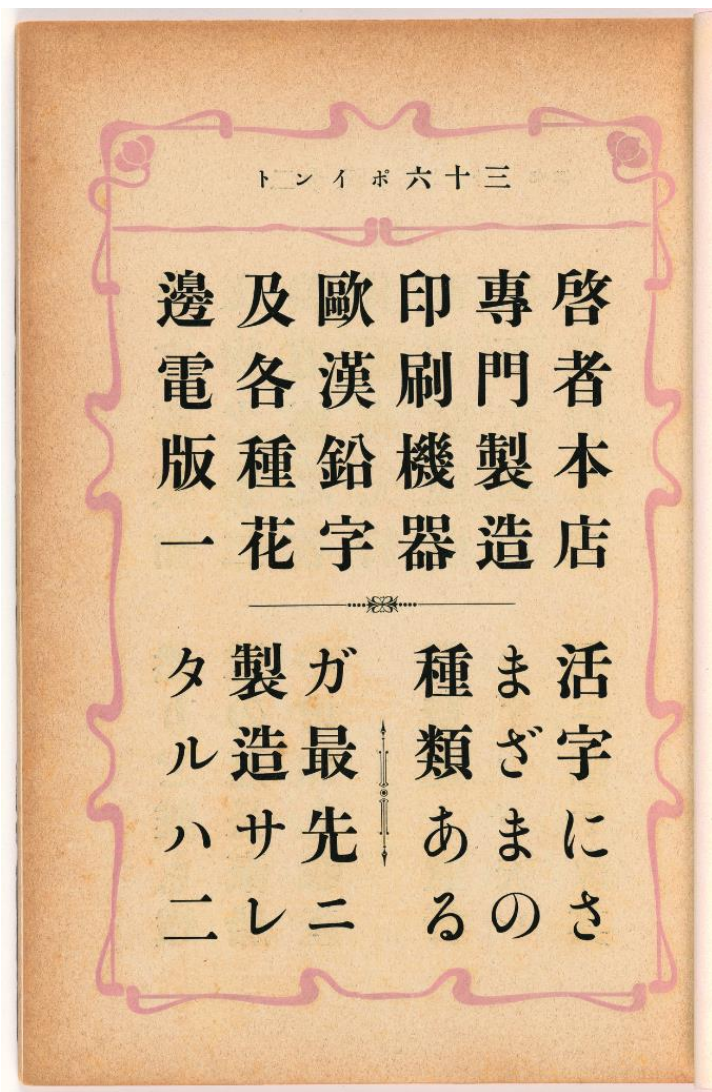
⑬ 清水金之助
1922~2011



⑭ 中川原勝雄
1934~2021

④種字彫刻の縮小期

この時期どんな書体が？



1 竹口芳五郎
1839?~1908

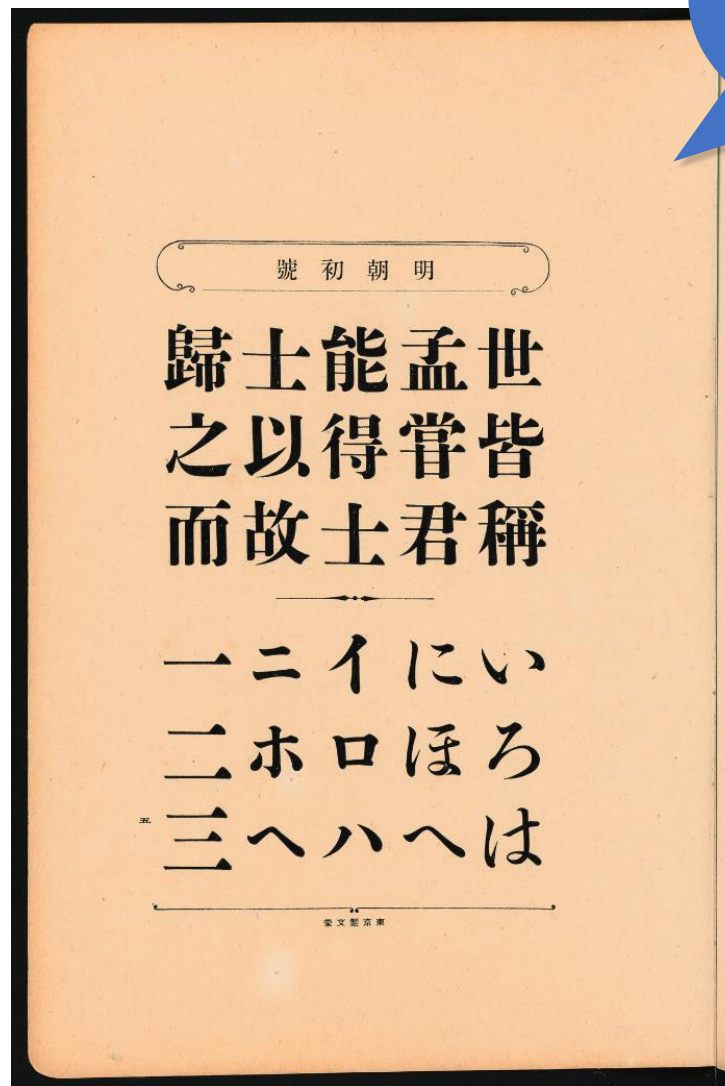


2 竹口正太郎
1867?~没年不明

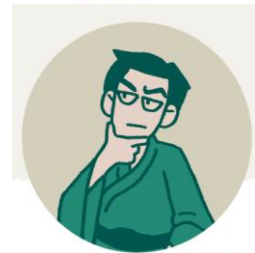


3 鈴木彦次郎
1877?~1932

誰が彫ったかは不明



5 沢畑次郎
生没年不詳

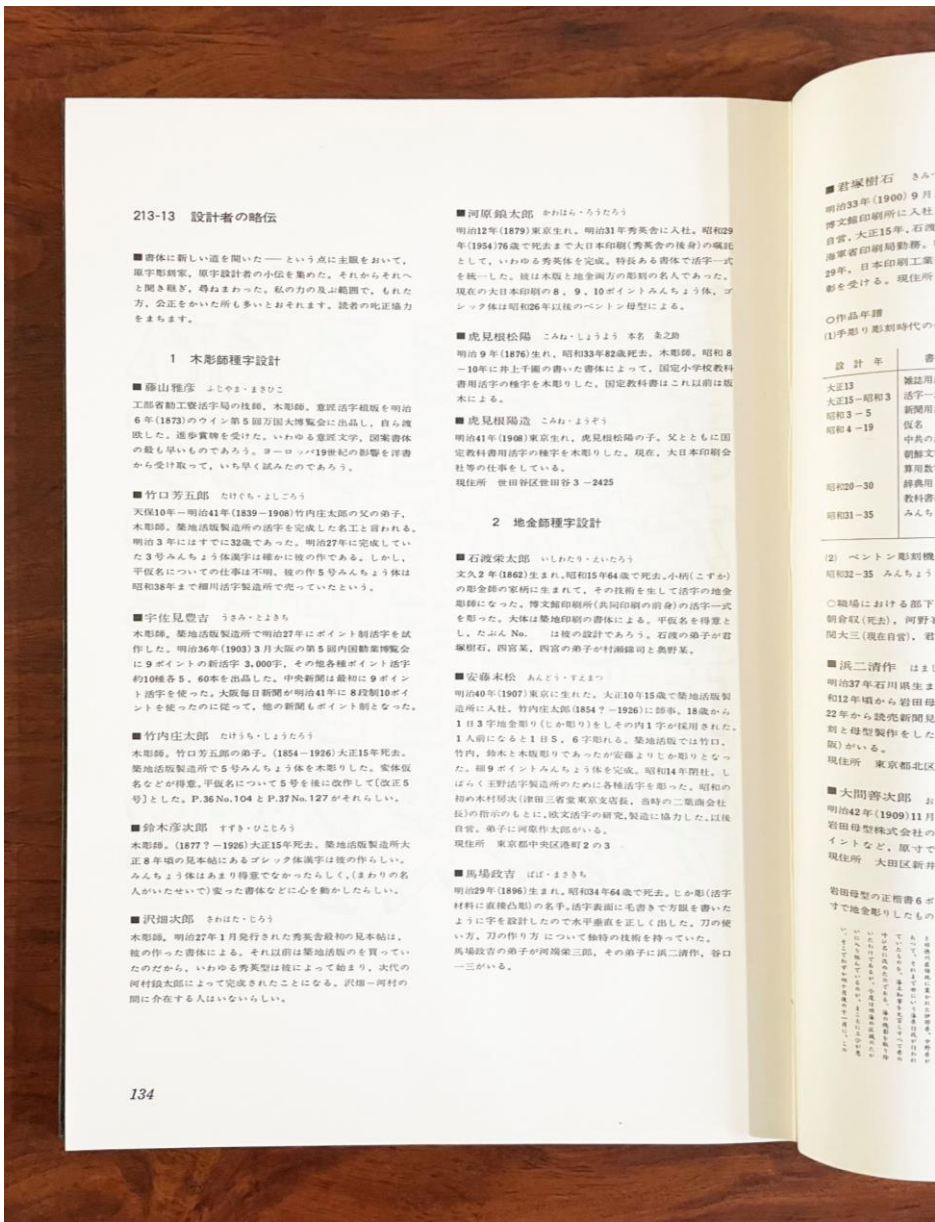


6 河村銀太郎
1879?~1954?

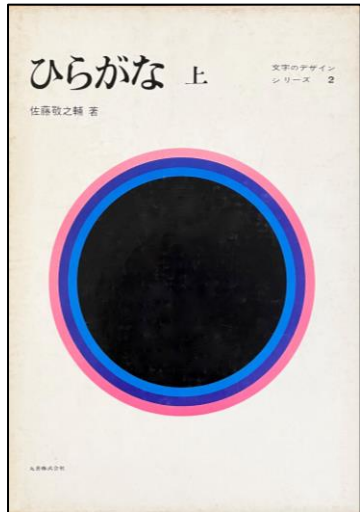
佐藤敬之輔



『佐藤敬之輔記念誌』
(佐藤敬之輔記念誌編集委員会、1982)

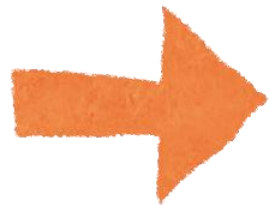


佐藤敬之輔『文字のデザイン 第2巻 (ひらがな 上)』 (丸善、1964)



種字彫刻師について調べよう！

- 佐藤敬之輔『文字のデザイン 第2巻（ひらがな 上）』「設計者の略伝」
- 他の資料と照らし合わせて内容をアップデート



- 種字彫刻師らしき名前で作成
- 各種資料から出てきた内容を人別に整理
- 生没年、名前の表記などのゆれを精査
- 生没年、入社、表彰歴などから年表を作成

国立国会図書館

印刷図書館



地味……

お話をうかがったみなさん

- 高内一さん……岩田母型製造所について
- 小塚昌彦さん……村瀬錦司について
- 橋本和夫さん……太佐源三について
- 小宮山博史さん……佐藤敬之輔について
- 庭田與一さんご親族

- 資料をお借りした関係各所

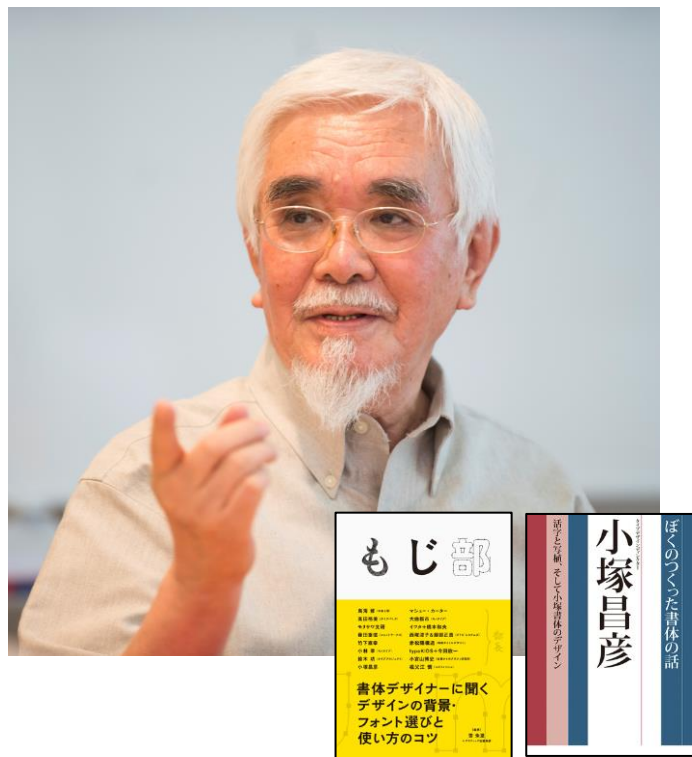


レジェンドたちのご協力



高内一さん

撮影：池田晶紀／『印刷・紙づくりを支えてきた34人の名工の肖像』（グラフィック社、2019）



小塚昌彦さん

撮影：弘田充／『もじ部』雪朱里+グラフィック社編集部（グラフィック社、2015）



橋本和夫さん

撮影：早川厚志／『時代をひらく書体をつくる。』雪朱里（グラフィック社、2020）

関係各所からお借りした資料

超すくない

- ① 種字など彫ったもの
- ② 電胎母型など種字から作られたもの
- ③ 戦後：種字彫刻師が手がけた原図（君塚樹石、太佐源三、村瀬錦司）
- ④ 明治、大正、昭和初期の活字見本帳
- ⑤ 書籍、新聞など活版印刷された印刷物
- ⑥ 彫刻師、作業の様子などの写真類

わりとある（でも彫刻師は不明）

ある！

印刷図書館

うちは古い資料を
ぜんぜん保存できて
なくて～

少しずつでも
保存してくださって
展示ができました！





種字彫刻師 人物相関図

本展に登場する種字彫刻師たちを中心に、その前後の世代の人々の師弟関係や、会社間の関係を図にしました。
時代とともに、活版印刷から写植、そしてデジタルフォントへと技術は移り変わりますが、
種字彫刻師に文字づくりを学んだ人々が活躍し、現代の文字のデザインに影響を与えています。

竹口貞齋(茂兵衛)

東京築地活版製造所



秀英舎／大日本印刷



博文館印刷工場(現 共同印刷)

石渡栄太郎

7 君塚樹石

精興社

君塚孝雄

印刷局

毎日新聞社

9 村瀬錦司

小塚昌彦

西塚涼子

Adobe

モリサワ

大日本印刷市谷工場で直彫りに従事

岩田母型製造所(現 イワタ)

11 馬場政吉 10 大間善次郎

12 庭田與一 13 清水金之助

14 中川原勝雄

高内一

イワタ

松尾武夫
伊達某
斉藤兵次

鈴木勉 今田欣一
鳥海修 藤田重信

写研

凸版印刷(現 TOPPAN)

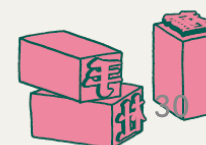
朝日新聞社

8 太佐源三

武林明 阪本清
八木正治

モトヤ

太佐の父の友人で影響を受けた



種字彫刻師と現在の書体デザイン

- 築地体、秀英体など明治期からある書体を作り上げた

→ 写植、デジタルなどその時の技術で復刻され現在でも利用

- 種字からベントンの原図作成に移行できた種字彫刻師

→ 下の世代を育成……小塚さん、橋本さんなど

→ さらにその下の世代を育成
影響を受けた書体デザイナーたくさん！

豊かな和文書体の基礎を築いてきたのが、種字彫刻師であり、
その多くが名前も残さず、美しい文字だけを残していきました。



活字の種を作った人々

2023年11月03日（金）～
2024年06月02日（日）

トークイベント、ワークショップを
GWに開催予定！